

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900235		
法人名	社会福祉法人 つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム つくしの里		
所在地	岩手県一関市滝沢字寺下2番地1		
自己評価作成日	平成26年9月26日	評価結果市町村受理日	平成27年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0370900235-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=0370900235-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年11月4日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ◆ 特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、高齢者生活福祉センター、居宅支援事業所と併設しており利用者さんの状態に合わせ、連携を図っている。
- ◆ 利用者さん一人ひとりのペースに合わせた暮らしができるように支援している。
- ◆ 職員と一緒に楽しめる行事を、数多く実施している。また、日々の生活の中で利用者さんの笑顔を引き出すことができるよう、努めている。
- ◆ 残存機能を把握し、生活歴、職歴を生かした声を掛け、利用者さん自ら発語等を引き立てていけるよう支援している。
- ◆ 併設施設と連携し、行事や学習会、避難訓練を行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ◆ 法人では、20年後、30年後の社会情勢、介護福祉事情を見据え、アモーバ経営を導入している。その経営理論は、職員の経営参加意識とマネジメント能力を高め、法人を全員で支えていくための経営の仕組みの構造と、それをベースに一人ひとりが自ら考え、行動できる力を持った人材の育成を目標とし、職員は意欲を持って学び取り組んでいる。
- ◆ 職員は、アセスメント票、介護計画、業務日誌等の見直し、記録の重複や負担が軽減されたこと、また、共有ホールにパソコンを移動し、会話しながら観察しながら作業できるようにしたこと等、利用者との関わりの時間を多くすることを考え、様々な工夫をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える所（玄関・職員トイレ）に掲示し、常に意識するよう心掛けている。今後、運営推進会議等で地域、ご家族、利用者さんを交え、より多くの方に浸透する理念を築いていきたい。	理念は、玄関や職員トイレに掲示し、意識して支援に活かすよう努めている。また、利用者、家族、地域の方々等のニーズや、事業所の状況の変化によって、現状にあった理念について検討していきたいと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設である特別養護老人ホーム【以下、明生園】の行事（里孫交流・合同防災訓練等）を通して、グループホームについて理解していただく機会を設けている。	事業所の広報（つくし暦・つくしだよ！）を、地域に発信している。隣の寺の供養に参加し、同席した方が夫婦で面会に来てくれる。同法人の特別養護老人ホームが行っている里孫交流や合同防災訓練等を通して、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に一度、広報（つくしだよ！）を発行し地区回覧を実施。認知症だけでなく、食事等についてワンポイント情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんの状況、行事報告を通して、資料の見直しをご提言していただいたり、避難訓練に参加しご意見をいただき、今後の業務に活かしている。	会議は、年6回開催している。委員には、避難訓練で車椅子介助を体験していただき、介護の厳しさを理解して頂いた。また、年に2回は利用者や家族全員に会議の案内を出し（2～3家族が参加）意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者を始め、介護保険課の担当者と連絡を取り、相談・報告を積極的に伝え、利用者さん、ご家族との協力体制を整えるよう努めている。	介護保険課の担当者や生活保護担当者と、相談・報告を積極的に行い、利用者・家族に適切なサービスが提供できるよう努力し、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	明生園グループ内でケアマネジメント委員会に参加し、ヒヤリハット・事故報告書を基に、課題を分析している。会議内で、身体拘束〇の確認を行っている。	身体拘束については、明生園グループの各事業所から、ケアマネジメント委員会に委員を選出し、ヒヤリハット・事故報告書を基に、課題を分析している。検討内容は、ホームで取り組みをし、業務に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	明生園の学習会に参加したり、資料を提供していただき、職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員をお招きし、学習会を開催した。現在は、必要性のある利用者さんはいないが、職員間で常に最新情報を共有できるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金の改定等の際、事前に説明会を開き、利用者さん、ご家族と意見交換を行い、同意をいただいている。参加できないご家族には、個別に話し合いができる機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、全家族に運営推進会議のご案内を出し、より多くの方から提言、意見をいただける機会を設けている。また、面会時にも話し合いができるように努めている。	面会時や、インフルエンザの予防接種承諾書を直接届けて頂き、意見を聞く機会にしている。年に2回、全家族に運営推進会議のご案内を出し、意見を頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議、アミーバ会議等を通して、職員の意見、提案を反映できる機会を設けている。毎月、開催する職員会議の場でも職員の意見、提案できる時間を設けている。	法人では、20年後、30年後の社会情勢を見据え、京セラの経営理念を導入しており、経営会議、アミーバ会議等を通して、職員の意見・提案を聞き反映させている。また、月1回の職員会議で、職員の意見を聞き反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表を作成しながら、人員等について相談できる体制を整えている。また、利用者さんの状態に応じて、勤務時間の変更、設備等について相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに問題意識を持ち、各自でテーマを設定し学習会を開催したり、ホーム外（ブロック定例会等）の研修に参加できるように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	アミーバ経営を通して、グループホーム（高齢者生活福祉センターも含む）同士で意見交換する機会を設けていただき、より発展的にサービスの質向上策を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前からホームに来ていただき、雰囲気を感じていただき、現在、入居中の利用者さんと交流できるように働きかけをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前からホームに来ていただき、雰囲気を感じていただき、現在、入居中の利用者さんと交流できるように働きかけをするとともに、ご要望・ご意見を聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と調整し入居日を決める等、安心してご利用いただけるようにいろいろな面でサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝い（洗濯物たたみ、茶碗拭き等）を中心に、利用者さんの残存能力を活かした取り組みを実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ゆっくりお話できるような環境を整えたり、通院や外出支援をご家族にお願いする等、ご家族とふれあう機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理髪やご家族以外の面会を通して、ふれあう時間をつくっている。	地区の理髪店(3、4軒)の訪問理容を利用し、馴染みの関係が出来ている。友人が訪ねてきたり、隣寺の供養で知り合った夫婦等、家族以外の面会者があり、関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂以外に、ベンチを設置し、利用者さん同士、職員も一緒にふれあう一時を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族の要望を聞き、法人内の事業所を中心にバックアップ体制をとれるように支援していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の様子の把握に努め、利用者さん一人ひとりの希望、意向を取り入れるように努めている。	日常生活の様子や会話を通して、利用者一人ひとりの希望、意向を把握するように努めている。食べ物では、喫茶店方式を採用し、おやつを何種類か示し選んでもらったり、飲み物もお茶、コーヒー、牛乳から好きな物を選ぶよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お茶飲み時間や入浴時間等、利用者さんとゆっくりお話できる雰囲気づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食堂・事務所のレイアウトを変更し、利用者さんに関わる時間を設けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子をご理解していただけるよう、介護計画の様式を見直した。専門用語などを多用しないで、分かりやすい内容に心掛けている。	職員(管理者も含め)6人で、1~2人を担当している。担当がアセスメント、プランの作成をし、職員で意見交換、モニタリング、カンファレンスを行っている。アセスメント票、介護計画の様式を見直し、職員の記録の重複や負担を軽減できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤業務で記録担当を配置し、細かく記録するように心掛けている。また、記録様式、ケア項目や介護計画についても見直しを行い、職員間で情報共有できる工夫を常に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設があるメリットを活かし、介護用ベッド、入浴設備について相談し、利用者さんの体調に合わせた支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族以外の面会も積極的に受け入れたり、ご近所の理髪店を利用する等、顔馴染みの関係を継続できるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、ご家族の意向を聞きながら通院支援を行っている。ご家族に通院をお願いする際は、日常の様子メモを渡すなど、情報交換がスムーズになるように努めている。	入居前からのかかりつけ医を継続している。通院は、家族対応が原則であるが、家族の意向で職員が支援することもある。受診の際は、かかりつけ医にホームでの生活を伝え指示を頂く等、情報交換が円滑に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一勤務の看護師、明生園勤務の看護師と連携を図っている。看護師の勤務に合わせ、通院介助をお願いし、医療機関との連携強化に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の意向を踏まえた上で、主治医、担当看護師等と情報交換を行い、早期退院支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療の先生と連携を図り、終末期の利用者さんを支援している。発熱など、異変があるときはご家族にも連絡を取り、ご家族の意向を最優先に支援している。	看取りに関する指針を作成している。看取りを経験している職員もいる。現在、訪問診療の先生と連携を図り、終末期の利用者を支援している。発熱など、異変があるときは家族にも連絡を取り、家族の意向を最優先に支援している。看取りに関する勉強会は、特養施設と一緒に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に見直しを行い、円滑に対応できる方法を全職員で取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設である明生園、高齢者生活福祉センターと合同で避難訓練を定期的実施。年一回、地域住民、消防団と一緒に防災訓練を実施。また、ご家族が参加する訓練も実施し、意見交換を行った。	併設の明生園、高齢者生活福祉センターと合同で避難訓練を実施している。年1回は、消防団と一緒に防災訓練を実施し、地域住民の協力も得ている。また、ホーム単独で、家族が参加する訓練を実施している。昨年、次のステップに向けて期待したい内容に挙げられた夜間訓練を、3月に予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生活歴や病気が違うため、気分を損ねないように心掛けている。また、一人ひとりの対応方法を明文化し、全職員が共有できるように努めている。	個々の人格を尊重し、丁寧な言葉かけをしている。介護(食事、日中、夜間、服装)、入浴(着脱、洗髪、洗身、処置)等のマニュアルを作成している。それにより、利用者毎の対応方法を明文化し、全職員が共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時間、洗髪について等、利用者さんの希望を取り入れる機会を設けるよう心掛けている。自己決定できない利用者さんに対しては、一人の職員で決めないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食堂、廊下のレイアウトを見直し、ゆったり過ごせる工夫を行い、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に服を用意していただいたり、晴れの日にご自分で服を選べるように支援を行っている。また、お化粧できる方はご自分で行うよう声を掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	話題づくりの一つとして、テレビをつけながら職員と一緒に食事を摂っている。体調を見ながら、下膳、食器の後片付けをご一緒に行っている。	食事は、職員が献立を決め調理している。利用者の機能が徐々に低下し、食材の準備や調理が出来なくなってきているが、下膳、食器の後片付けを職員と一緒にしている。誕生日には、本人の希望を聞いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調に合わせ、お粥・刻み食の提供。1食あたりの使用品目もなるべく多く摂れるように心掛けている。また、定期的に法人内の管理栄養士さんに献立チェックしていただき、アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態にあわせた口腔ケアを実施。うがい、歯磨き、義歯洗浄、舌ブラシ等。また、明生園で行われている口腔ケア研修会に参加するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間、排泄チェックを行い、一人ひとりのパターンの把握に努めている。ご自分でトイレに行けない方は、定時にトイレ誘導し、汚染を少しでも軽減できるように努めている。	24時間、排泄チェックを行っている。一人ひとりのパターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。特に、便秘には注意している。また、定時にトイレ誘導し、失敗し汚れてしまうことを少しでも軽減できるように努め、排泄後は、温かいタオルで清拭している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの水分摂取量を把握し、体調にあわせた内服薬の服用している。また、看護師と連携をとり、快便となるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせた入浴支援ができるように併設施設の協力をいただいている。入浴支援について、職員だけでなく利用者さん、ご家族の要望を聞き、快適な入浴時間になるよう心掛けている。	利用者は、週2回入浴している。状態により、機械浴等が必要な場合は、併設施設の協力を得て入浴している。また、異性の職員が介助する際、利用者の心情を察した配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間や就寝時間は、一人ひとりに合わせている。不安で何度も起きてくる利用者さんに対しては、都度、説明し安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で管理し、服薬支援をしている。症状等について、通院時にご家族に報告し、内服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化になってきているが、職員と一緒に楽しめる活動（ドライブ等）をしたり、ご家族と一緒に外出できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	落ち着かないとき等、敷地内を散歩したり、利用者さん一人ひとりのお話を聞き、ドライブ（行事）の参考にしている。	利用者一人ひとりから話を聞き、ドライブ（行事）の参考にし、併設しているみどりの里と合同で実施している。日常的には、敷地内を散歩したり、随時外気浴を実施している。年1～2回、家族と外出する方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は職員で管理しているが、外出支援の際にご自分で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けてほしい、と訴える利用者さんに対して、ゆっくりお話を聞く時間を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂内のレイアウトを変更し、利用者さん同士、顔が見えるように配置した。テレビの音量も抑え、会話が聞き取りやすい環境づくりに心掛けている。	食堂を兼ねた共有のホールには、利用者が全員顔を見ることができるようテーブルが配置されている。出窓には、敬老会でいただいた鉢花が飾られている。長い廊下には、手すりが付けられ、ベンチ、ソファが置かれている。面会者とベンチで話していることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関ホールにベンチを置き、気の合う利用者さん同士、ご家族や職員と一緒に過ごせる工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	申込、見学時点で説明を行い、入居後もご家族の協力をいただき、使い慣れたものをご用意していただくよう働きかけをしている。	ベッド、筆筒、洗面台、押し入れは備え付けで、寝具や食器は持ち込んでいる。8人はベッドを使用しているが、1人は畳に布団を敷いている。居室の入口には、表札や習字等の作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事務所(パソコンの位置)を変更し、者さんとの距離を縮め、より多く会話できるよう心がけ、一人ひとりの「できること」「わかること」「訴えたいこと」を見守り、対応できるようにしている。		